live 24

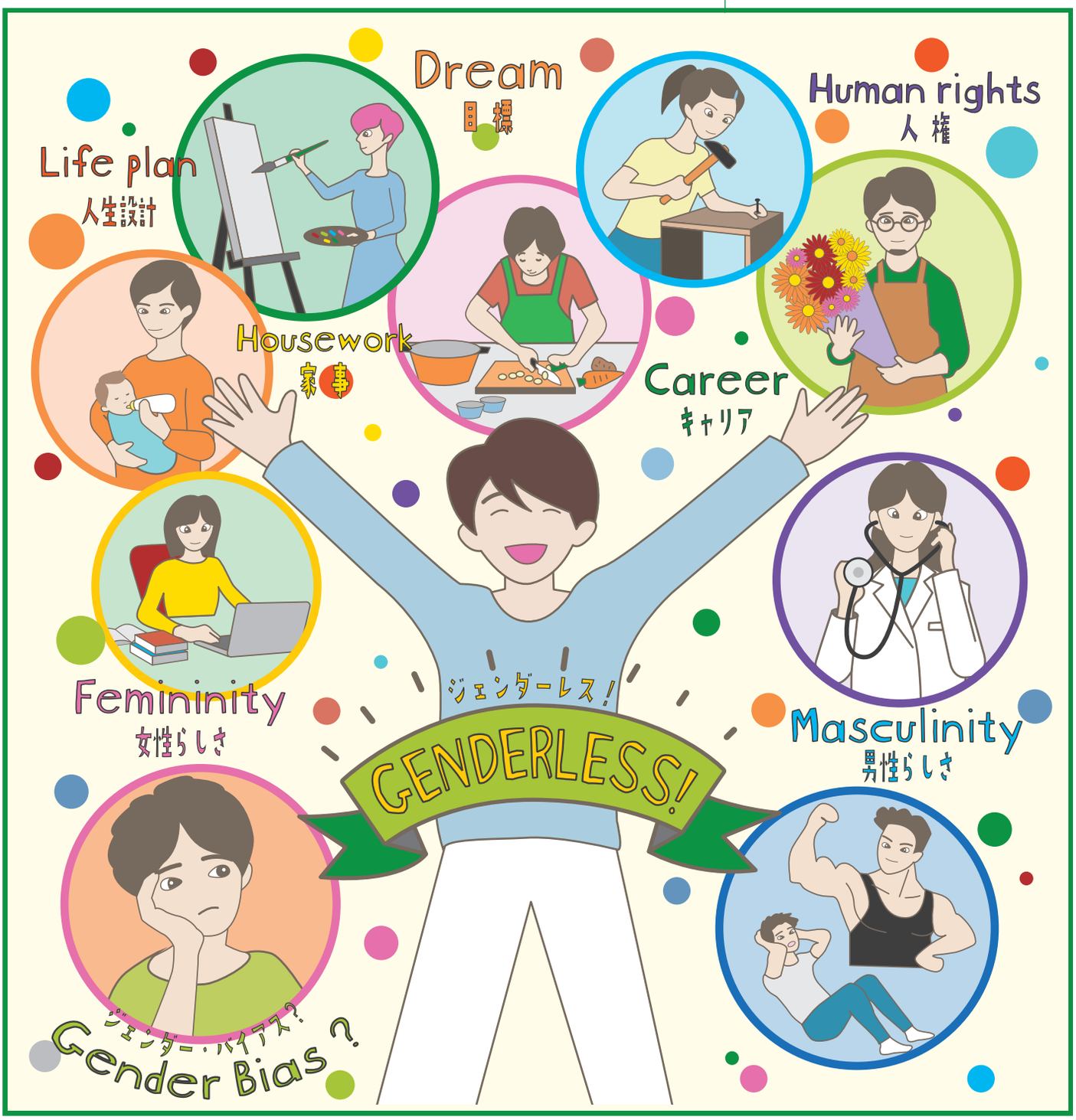
live: ライブ 「自分らしく輝いて生きる」という想いを込めた男女共同参画推進のための情報誌です。是非ご覧ください。 2023.02

CONTENTS

2
特集「男らしさ」って何！？
～男性への「無意識の偏見（バイアス）」を考える～

7
Crossword ／ Books

8
「ジェンダーにまつわる
もつれた糸のほぐし方」
小川 仁志さん



特集

「男らしさ」って何!?

～男性への「無意識の偏見（バイアス）」を考える～

名古屋大学
ジェンダーダイバーシティセンター特任助教
川口 遼 氏

「男らしさ」とは何なのでしょう。その正体に迫ろうと、山口市男女共同参画センターでは講座を開催。すると、男性への「無意識の偏見（バイアス）」があることがわかってきました。「らしさ」に縛られない生き方を、ぜひ、一緒に考えてみませんか。

プロフィール

国際基督教大学教養学部卒業。一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了、同博士課程単位取得退学。２０２０年東京都立大学子ども・若者貧困研究センター特任助教。２０２２年より現職。専門は家族・労働・福祉の社会学、ジェンダー・セクシュアリティ研究。

――用語解説――

【無意識の偏見（バイアス）】

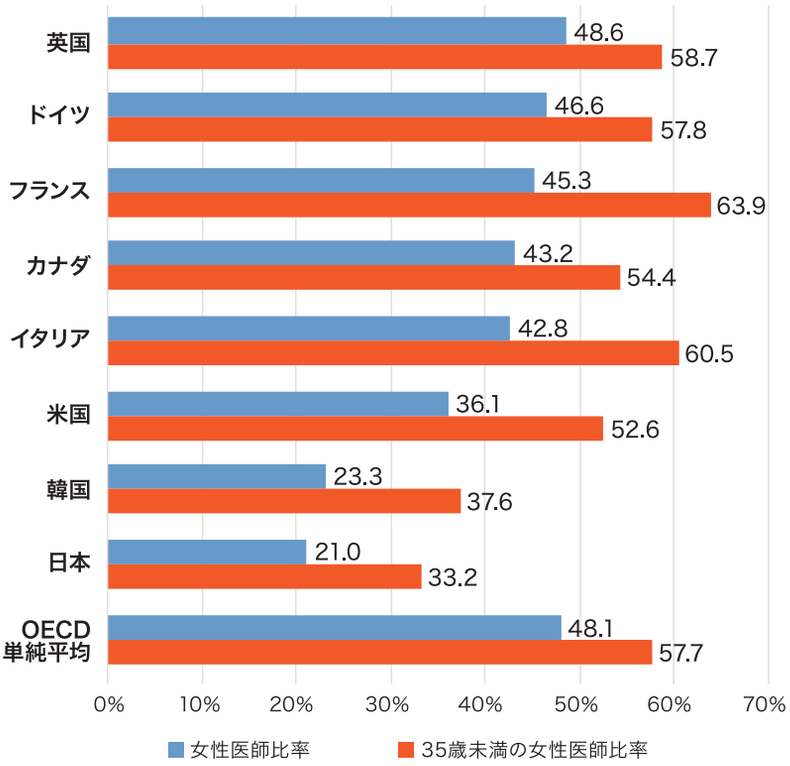
人が持つ、ものごとの捉え方の偏りや歪みを指す認知バイアスのうち、特定の集団に対する無意識の思い込みを指します。この思い込みのために、私たちは人がある集団に属していることを理由に、特定の判断を下したり、特定の行動を取ったりすることがあります。

I 「無意識の偏見（バイアス）」と男らしさ

皆さん、「ジェンダー」という言葉をご存知ですか？一般的には、生物学的な男女それぞれの特徴に対し、「社会・文化的な性」を指していると説明されることが多いようです。もう少し詳しく説明すると、ジェンダーとは「男性」「女性」といった性別のカテゴリーについて、社会的に共有されている「知識」のことです。そのような「男性／女性とはこのようなものだ」という「知識」のことをジェンダーと呼ぶのです。

このように社会で共有された「知識」には単純化されていたり、不正確だったりするものがあります。さらに、それらの「知識」は時に、現状の男女間の格差を正当化してしまうことがあります。例えば、一般に女性は男性よりも数学が苦手だというイメージがあると思います。実際に、数学の能力を測る試験では女性よりも男性の方が、平均点が高くなる傾向が知られています。こういった「知識」は時に、女性が自然科学系の進路を選択することを抑制してしまったり、自然科学系の専門職に占める女性の割合の低さを「仕方がないもの」として正当化してしまったりします。例えば、日本とその他のG7諸国の女性医師比率を見てみましょう（左図）。国によって女性医師比率に違いがあるということは、日本における女性医師の少なさは単純に能力差を反映したものとは言えません。にもかかわらず、「女性は脳の性差のために理系科目が苦手」と聞くとなんとなく女性医師の少ない事は仕方がない事と思えてしまわないでしょうか。

《 女性医師比率 》（全体・35%未満）



出典：OECD HealthStatics 2019

※ステレオタイプ…多くの人に浸透している固定概念や思い込み。

このように私たちが生きる社会では「男性」や「女性」に関するさまざまな「知識」が共有されています。そして、それらの多くを私たちは内面化しており、ほとんど無意識のうちに、自分自身はもちろん他者についてもその性別に基づいていろいろな判断を下し、行動を選択しています。

ジェンダーに限らず、このように人々が身につけている特定の集団についての単純化された理解のことを「無意識の偏見（バイアス）」（専門的には「潜在的ステレオタイプ」※）と言います。私たちの思考や判断にはパターン化された偏りがあり、それらは認知バイアスと呼ばれます。無意識の偏見（バイアス）のうち、性別に関する偏見（バイアス）やステレオタイプはその代表例の1つです。私たちは、しばしば本来は多様であるはずの個々人のあり方を「男性」と「女性」というたった2つのカテゴリーに基づいて判断してしまうのです。特にステレオタイプといった場合、1つ目に「誤ったステレオタイプ」（特にマイノリティに対する事実でない偏見）、2つ目に「統計的ステレオタイプ」（統計的事実の単純化した理解）、3つ目に「規

範的ステレオタイプ」(社会的に共有されたルール)の形をとると言われています。

「男性」というカテゴリーについても私たちは様々な「知識」を内面化しています。特に今回のテーマである「男らしさ」については「規範的なステレオタイプ」が問題となります。社会学者の伊藤公雄さんは、近代社会における男らしさをめぐる規範は、「優越(競争に勝つ)」、「所有(より多くのモノを持つ)」、「権力(自分の意志を他人に押し付ける)」という志向性があると指摘しています。

私たちは、他人と競争に勝つことや、より多くのモノを持つことや、他人に自分の意志を押し付けることを「男らしい」と思っていたり、男たるものそうあるべきだという考えを内面化してしまっているのでは?という指摘です。例えば、私たちは特に男の子について運動会のリレーの選手に選ばれることを高く評価したり(優越)、「稼ぎが良い/悪い」といった表現で男性の稼得能力を評価したり(所有)、「妻の尻にしかれている」(権力)夫を情けない存在と捉えたりしています。

無意識の偏見 ＝ 潜在的ステレオタイプ

1 誤ったステレオタイプ
不正確かつ非倫理的
「女性は感情的だ」

2 統計的ステレオタイプ
統計的事実と関連するが、非倫理的な場合も
「医大入試差別事件」

3 規範的ステレオタイプ
規範　社会的に共有された暗黙のルール
「男なら○○しないといけない!」

「男らしさ」のステレオタイプ

近代社会における「男らしさ」の3パターン

パターン1 優越指向
他者と競争し勝たなくてはならない

パターン2 所有指向
たくさんのモノを所有し管理しなければならない

パターン3 権力指向
他者に自分の意思を押し付けなければならない

Ⅱ ステレオタイプの弊害

ステレオタイプには統計的に正しく、倫理的に問題のない例もあります。例えば歩行者が高齢者であれば、車のスピードを落とすというのは、年齢に関するステレオタイプに基づく判断ですが、おそらく統計的に正しく、倫理的にも問題はありません。問題なのは偏見のような誤ったステレオタイプで、不正確かつ非倫理的なものです。あるいは先ほどあげた数学の例のように統計的ステレオタイプの中には、統計的な事実に基づいていたとしても、非倫理的な働きをするものもあります。

男性に関する規範的ステレオタイプについては、「男らしさのコスト」という観点から問題化されることが多いです。「男らしさのコスト」というのは、男性中心的な社会を維持するために、男性が負担している物事、という意味です。それは暴力的な環境に置かれやすいことであったり、非常に重い稼得責任を背負っていることであったり、強さへの志向と弱さの嫌悪といったものです。男性は子どもの頃から暴力を振るいやすく受けやすいことが調査でわかっており、日本の男性の自殺率の高さ、過労死の多さは弱さの嫌悪と繋がっているのではないか、とも言われています。

ただ、男性の規範的ステレオタイプの抑圧性を過度に主張することの問題点も指摘されています。例えば、しばしば男性は女性以上に長時間労働のプレッシャーにさらされているということが言われます。統計的に見ても、女性よりも男性の方が労働時間が長い傾向にあり、そのことが男性の家事・育児参加が低調であることの理由とされています。しかし、仮に労働時間が短くなったとしても、男性が家事・育児を担うようになるとは限りません。

現に、共働きか片働きかの違いは、夫の家事・育児負担に大きな影響を与えていないという調査結果もあります（総務省「社会生活基本調査」）。「男性は長時間労働のプレッシャーにさらされている」というステレオタイプが、現状の男女格差を正当化してしまっている可能性もあります。

《令和3年度性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査の結果より》

性別役割に対する考え 男性 上位10項目

回答者数：5069
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

1	女性には女性らしい感性があるものだ	51.6%
2	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	50.3%
3	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	37.3%
4	女性は感情的になりやすい	35.6%
5	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない	31.8%
6	男性は人前で泣くべきではない	31.0%
7	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	30.3%
8	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	29.8%
9	家事・育児は女性がするべきだ	29.5%
10	家を継ぐのは男性であるべきだ	26.0%

出典：内閣府男女共同参画局 令和3年度性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査の結果より

Ⅲ 無意識の偏見（バイアス）への処方箋

無意識の偏見（バイアス）が持つ弊害に対処するためには、それらがどのように働いているかを知る必要があります。例えば、男性についての規範的ステレオタイプについて考えてみると、政府の労働・家族政策やマスメディアにおける男性の描かれ方といったいわば社会のマクロレベルの動きに影響されていることが指摘できます。こういった大きな動きについては個々人ができることはそれほど多くないかもしれません。ただ、偏見（バイアス）やステレオタイプというのは社会のミクロレベル、すなわち私たちの日常生活において機能するものです。私たち自身がジェンダーの「知識」に基づいて、ほとんど無意識のうちに何かを評価したり、意思決定をしたりすることで、偏見（バイアス）やステレオタイプが社会的に機能するわけです。また、私たちが偏見（バイアス）やステレオタイプに根ざして行動することは、単にそれが機能したということだけでなく、そのような「知識」が再生産されたということも意味します。

無意識の偏見（バイアス）は見えづらく、自然なものと認識されやすいことから、「見える化」して、その存在を意識できるようにすることが重要です。まずは私たちが普段、「性別」に基づいてどのような判断をしているか、振り返ることから始めてはいかがでしょうか。

コラム

バイアスにどのように対応できるか

スウェーデン・カールスクーガ市 除雪作業にもジェンダーギャップ？

好事例としてジェンダー視点から政策を見直した自治体の話をします。スウェーデンのカールスクーガ市では除雪作業をジェンダーの視点で再評価しました。大きな道路を車で走ることの多い男性と違い、女性や子供、高齢者が主に利用するのは歩道であり、移動手段と移動理由には性差があることと雪による事故は歩道で起きやすいことに着目し、除雪を大きい道路から歩道優先にするよう変更したのです。それによって年間3億円かかっていた除雪費用のコストの削減と同時に、コストをかけることなく事故減少も達成することができました。また年間6億円に上っていた医療費・休業補償の減少と税収アップも実現できたのです。

キャロライン・クリアド＝ペレス著『存在しない女たち 男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く』河出書房新社 より

Ⅳ 男性参加者の声

あなたにとって「男らしさ」とは何ですか？ 受講後に「男らしさ」について何か変わりましたか？

「男らしさ」とひとくくりに言われるのは心外だったので、ひとくくりにされない生き方を考えていきたい。昔は男子厨房に入らずと言われていましたが、ひっくり返したい反感から今では毎日食事を作っています。講座の中での統計で男性比率が高い、特に政治家の男性比率の高さに気づかされました。公務員の男性比率も高く、日本の公務員のスキルの高さと誤魔化し方に感心しています。（70代）

長男として家を継ぐのが当たり前だという考えで生きてきました。家族を養う、親の面倒を長男が見るのも当たり前としてきました。今日の講座を受講して「男らしさ」を意識することを意識しない生き方をしていきたいと思います。（40代）

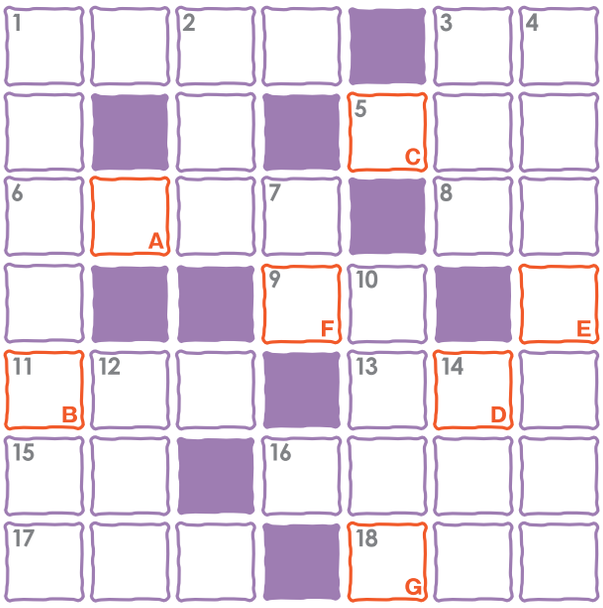
私は「男らしさ」について意識するタイプではありません。しかし、無意識に恋愛において「男らしい」ほうが、モテるのかな？と思っています。

選択的夫婦別姓についても法律を変えられない社会は何なのかなと思います。自分が良い方を選択できる社会にしたいと思います。（20代）

社会組織の役割をジェンダー視点で創っていくしかないと思う。ミクロレベルでのシステムづくりが必要と感じた。社会経済、政治の世界にも、そして夫婦共稼ぎの時代の新しいコミュニティをつくる上でも、ジェンダー視点で考えることが必要と感じました。（60代）

正解者のうち抽選で30名の方に図書カードを差し上げます。

Crossword



ヨコノカギ

1 山口市○○○○共同参画センターは市民会館前の建物です
3 ○○な格好・○○なプラン
5 文章の中に、関係ある事物を描いた絵
6 ワーク・ライフ・○○○○○○み・○○リ・円○○
8 ○○にしもあらず
9 市内⇕○○○
11 立位の読み方
13 バッ○○・○○子屋・○○ス
15 冬○○り△△、春遠からじ
16 他に例のないこと、異例
17 手に汗を○○○
18

タテノカギ

1 「多様性」と言う意味
2 ○○○ダー・バイアス
3 毛織物の一種
4 センター○○○○○○○の講演者は柳澤秀夫氏でした
7 ○○時計・○○場・星の○○
10 ○○○○美玲 ○○○○健太 ○○○○広人
12 ○○○の天井(参画用語)※
14 オシャレに言えば「オールインワン」「コンビネゾン」

※表面的には平等に見えながら、昇進・登用や意思決定の場への参画を事実上制限している「見えない障壁」があることをいいます。

答えは A B C D E F G です!

■応募資格　市内在住か、在勤の方

■応募方法　3月15日(水)までに、はがきに答え・郵便番号・住所・氏名・年齢・感想をご記入の上、下記へ送付してください(当日消印有効)。

〒753-0074 山口市中央二丁目5-1
山口市男女共同参画センター　ゆめぽぽら宛

※正解者のうち抽選で30名の方に図書カードを差し上げます。なお、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

これらの図書は、山口市男女共同参画センターにて貸し出しています。

Books

BOOK

『記者失格』　柳澤秀夫著　朝日新聞出版

「迷うことを恐れてはいけない。皆様のものの見方に対し、どれだけ謙虚でいられるか。それがより大切なことではないだろうか。」40年に余る歳月を記者、解説委員、コメンテーターとして報道にかかわってきた筆者のまじめさと優しさのルーツが分かります。

BOOK

『おいしい子育て』　平野レミ著　ポプラ社

レミさんの子育てのポリシーは「外でのびのびと遊ばせて、ごはんもきちんと食べさせて、バタンキューとねかせちゃう」。家庭の食事が子供の心身を成長させることを、料理を通して語りかけてくれます。

BOOK

絵本『ぼくのママはうんてんし』　おおもとやすお著　福音館書店

ママは運転士、パパは看護師。世間の常識とは違う家庭の中で「幸せ家族の日常生活」を子供達の目線で語りかけてくる一冊です。

ジェンダーにまつわる もつれた糸のほぐし方

小川（おがわ） 仁志（ひとし）さん

プロフィール

哲学者・山口大学国際総合科学部教授

1970年、京都府生まれ。京都大学法学部卒、名古屋市立大学大学院博士後期課程修了。博士（人間文化）。商社マン（伊藤忠商事）、フリーター、公務員（名古屋市役所）を経た異色の経歴。専門の公共哲学の観点から、「哲学カフェ」をはじめ哲学の普及活動を行っている。Eテレの哲学番組などメディア出演も多い。著書に『公共性主義とは何か』『不条理を乗り越える』ほか多数。

ジェンダーという言葉が、社会的・文化的に形成された性を指すものとして一般に使われ始めたのは、1980年代になってからだといっていいでしょう。

とりわけそれは、「女性らしさ」や「男らしさ」という表現に典型的に見られるように、一定の人たちにある種の抑圧をもたらす概念だといえます。その意味では、そうした抑圧は古くから存在しているのであり、人々は皆我慢してきたのです。

そんな不合理な状況に対する反発として生じてきたのが、ジェンダーという概念だったのです。しかし、いきなりジェンダーの議論が始まったわけではなく、最初は女性を解放するフェミニズム運動から問題が提起されていきました。

社会における女性の差別がおかしいということになると、そもそも男女問わず性別のせいで社会的に不利な扱いをされるべきではないという議論に発展していきます。それがジェンダーの議論なわけです。

そうなるとそもそもこの世に男女しかないという発想自体がおかしいのであって、もっと多様な性を認めようという動きが出てきます。それが昨今のLGBTQ＋のようなセクシャルマイノリティを支援する運動につながってきます。こうしてジェンダーの議論は益々多様化しつつあります。

と同時に、あらゆる差別は複合的なものであるとして、最近ではインターセクショナリティという概念も出始めています。日本語では交差性などと訳されます。人種やジェンダー、セクシュアリティ、年齢などの相互に交差する問題を、個別にではなく一つの問題として扱おうとする考え方です。

各々の問題は、交差することでまったく新たな問題を生み出しているということです。もちろんそこにジェンダーの問題も絡んできます。かくしてジェンダーの議論は益々複雑化していくのです。

では、このもつれた糸のごとく多様化、複雑化するジェンダーの議論に、私たちはどう向き合っていけばいいのでしょうか？ こういう時、物事の本質に立ち返る哲学の立場が取る戦略は次の二段階です。

第一段階は、従来のモノサシをいったん捨てることです。そのうえで第二段階として、事態をシンプルに捉え直す必要があります。ジェンダーの議論が対立をはらむのは、従来の枠組み、常識に照らしたモノサシを当てはめようとするからです。男女の生物学的差異しかなかった時代の基準を持ち出そうとするから対立するのです。

その際、多様化し、複雑になってしまった状況を、もう一度俯瞰して捉え直すことが求められます。次元を一つ上げて考えてみるといってもいいでしょう。いったい何が問題なのかと。もともとは同じ事柄から派生してきたわけですから、そこには必ず共通する問題があるはずです。

おそらくそれは、人がこの世の中で互いにどう扱われるのが生きやすいのかという問題なのではないでしょうか。そこに立ち返りさえすれば、もつれた糸はおのずとほぐれていくように思えてなりません。

live ライブ 第24号　発行 山口市地域生活部人権推進課／特定非営利活動法人 山口市男女共同参画ネットワーク　〒753-0074 山口市中央二丁目5-1（山口市民会館事務所2F）TEL083-934-2841

用紙は再生紙を使用しています。 PRINTED WITH SOY INK 印刷インキは、環境にやさしい植物性大豆油インキを使用しています。